

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 34

学校名・団体名	熊本市立龍田西小学校
HPアドレス	http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/tatsudanishies/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	自分たちのくらしを主体的に創造していく児童の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は開校2年目の学校で、山を切り開いて造られた住宅地の中に建つ。周りは自然に囲まれ、落ち着いた環境にあるが、近くを大きな道路が走り、交通量が多いことも特徴である。また、昨年度の熊本地震により、子どもたちの通学路が変更されるなどの被害を受けた。これらのことにより、子どもたちに自分の住む地域の安全について、関心を持たせ、発信していくことで、地域全体が安心して安全な町へとつながっていくことを期待して本テーマを設定した。</p>	

【活動・研究報告】

～導入～

「校内のユニバーサルを探そう」(6月実施)

①内容・・・本校は新設校ということで、人に優しいデザインが施されている。そうしたユニバーサルデザインを学校中探して回った。エレベーター内に目の不自由な人のための点字があることを見つけたり、体の不自由な人のために車いすごと使うことのできる水道を発見したりした。

②成果や子どもたちへの効果・・・3クラスそれぞれで調べたことを持ち寄り、学年で報告会を実施した。その会において、たくさんのユニバーサルデザインを確認することができた。子どもたちからは、「自分たちの学校が、とても人に優しい学校だと分かりました。」という声が聴かれた。

「校区の危ないところを探して人に伝えよう」(10月実施)

①内容・・・校内のユニバーサルデザインを探した後、実際にそうした施設や設備を利用していらっしゃる老人介護施設に行きそこの入所者の方々と交流を深めたり、車いす体験をしたりと、「人に対する優しさ」について学習してきた。こうした学習の後に、「それではわたしたちの住む町はどうだろう。安全で安心して住める町なのか」という問題を投げかけた。この問題を4年生で考えていくために次の2点について話し合った。まず「どうやって安全か、危険かを調べたらいいか」次に「調べたらそれを生かすためにどうやって伝えたらいいか」の2点について、4年生全体で話し合った。その結果、調べる方法としては「実際歩いて調べる」「近所の人に聞く」「インターネットで調べる」等の意見が出た。「生かす方法」としては、「全校に伝える方法としては放送や集会を利用しつつ、いつでも見られるようにみんながよく通る場所に地図を貼って知らせる」という意見の他、地域の人々に知らせるために看板に貼ったり、回覧板で回したりする方法を考えていた。

②成果や子どもたちへの効果・・・4年生で取り組む学習のスタートではあったが、その取り組む方法や手段に加え、どういう生かし方をするかというゴールまで見通すことができた。

～展開～

「安全マップを作ろう①」(10月実施)

①内容・・・熊本市北区役所の総務企画課が、地域の安全マップ(ハザードマップ)の製作を支援している事が分かり、協力していただくことになった。早速連絡を取り合い、第1回目の安全マップ作り探検を市役所の方の指導と共に実施した。まずは、学校の周りの1町内をクラスごと3コースに分けて調べて回った。調べる視点を、「交通安全面で危険なところ」「防災上危険なところ」「防犯上危険なところ」「遊ぶと危険なところ」の4点とし、市役所の方にもその4つの視点で危険な箇所の発見と危険性の説明をお願いした。実際一緒に調べて回ると、子どもが飛び出しやすい交差点や、街灯のない道、大雨や大地震の時は被害が出そうな階段など、改めてその危険性を発見することができた。

②成果や子どもたちへの効果・・・町内には多くの子どもが住んでいるが、実際歩いて調べて回ったことや、市役所の方の話から、交差点が多く、飛び出しが危険なことを改めて実感していた。それまで何の意識もなかった場所が、見方を変えると、多くの危険性があることに気づくことができた。

「安全マップを作ろう②」(11月実施)

①内容・・・1回目につき、他の2・3・4町内のマップ作り探検を実施した。今回は各町内に住む児童ごとに別れ、自分の通学路を中心に調べて回った。今回も市役所の方にお願ひし、一緒に歩いて指導をしていただいた。2町内においては、数年前の大雨災害により、現在大規模な工事が行われている。そこで、当時の様子や被害状況、その後の工事などを、市役所の方にお願ひして、現場で話していただいた。その他の町内においても、4つの視点で危険なところはないか調べて回った。

②成果や子どもたちへの効果・・・2町内の子どもたちは、市役所の方の話を聞き、水害についても防災の大切さを感じていた。3町内においては、新しく造成された住宅地と、昔からの住宅地があるが、それぞれの特徴に伴う危険があることに気づく事ができた。特に昔からの住宅地内を通る道路は狭く、車の往来も多いために、危険性が高いことに気づくと共に安全に通学しようという意識が高まった。

「町の危ないところを教えてもらおう」(11月実施)

①内容・・・4つの視点のうち「交通安全面」と「防犯面」においては、「実際これまでどうだったのか」という事実を知ることが大切と考え、校区を管轄している龍田交番に、これまで起こった事件や事故について話をさせていただくように依頼した。実際話を聞いていろんな事が分かった。交通安全面では、校区を縦断する北バイパスでの事故や違反が多く、子どもたちにも注意を促された。また校区には坂道が多く、自転車での事故が多いことも教えていただいた。一方で防犯面では、他地域より比較的事件が少なく、起こっていても軽微なものであることを教えていただいた。とはいえ、校区内ではないが、数年前に起こった不幸な事件がすぐ近くであることも紹介され、用心することの大切さをしっかりと伝えられた。

②成果や子どもたちへの効果・・・まずは、事件発生が少ない校区と聞いて、子どもたちは「ぼくたちの住む町は安全な町と聞いて安心した。」という意見がたくさん聞かれた。安心すると共に、不幸な事件の話を聞き、「気をつけることの大切さ」を思い直していた。また、校区に坂が多く事故が発生している話は、自転車に乗

って出かけるようになってきた4年生にとって、実感を伴った話であった。実際坂道で転倒してけがした子もおり、気をつけようという意識が高まっていた。

「防災センター見学」(11月実施)

①内容・・・熊本市の市消防局内に「防災センター」があり、その中で様々な災害の体験や、災害にあったときどう行動したらいいかという講話を聞くことができる。予約の都合上、11月の実施になってしまったが、子どもたちは、地震、火災、台風については災害体験をし、実際どう対応したらいいのかを学ぶことができた。また体験以外でも、様々に資料があり、大雨水害時の写真や、地震による液状化の実験など、見るだけでも貴重な学習をすることができた。

②成果や子どもたちへの効果・・・防災センターでの体験により、1年前の地震を思い出して、比べてみたり、次に起こったときはどうすればいいか考えたり、実体験と比較しながら学ぶことができた。また、台風については秒速20メートルの風がいかにか強いかを体験し、ニュースの情報と比べて用心しようと思ふやく子どもがたくさんいた。熊本地震を体験している子どもたちだけに、自分の体験と比べることで、気をつけることの大切さを強く実感することができていた。

「マップ作り」(11月実施)

①内容・・・全町内の危険箇所調べが終了した時点で、撮りためておいた危険箇所の写真に、どんな危険性があるのか一言書いた付箋紙を添えた図面を、町内ごとの地図に貼っていった。子どもたちが見つけた危険なところを貼らせていくと、地図はすぐ図面いっぱいになった。その中から、より危険性の高いものやぜひ載せておくべき箇所について話し合いながら、整理していった。より信頼性が高まるように、子どもたちが歩いて調べた資料に加え、家庭での聞き取り調査も実施した。登下校時に使う道沿いを中心としたため、新たな情報がたくさん集まったわけではないが、わざわざ子どもと写真を撮りに出かけたり、地区の安全委員として収集した情報を提供していただいたりして、よりよいマップにしようと思つてご協力をいただいた。それらの情報を地図にまとめ、まだ下書き段階ではあるが、全員でできた地図を見ながら意見の交流会を実施した。

②成果と子どもたちへの効果・・・

安全マップが形になってくるにつれ、子どもたちは喜びと共に、安全に対する意識が高まっていった。子どもたちの感想からは「これまで普通に見たりしていた場所が、見方を変えると危険だったりすることが分かった。これからは安全に気をつけ、命を守っていこうと思います。」などの意見が多数見られた。

～発展～

「全校児童への配布と生かし方」(3月実施)

①内容・・・北市役所総務企画課より、できあがった安全マップの印刷までして下さった。子どもたちの手書きの字も記された、手作り感のある、丈夫できれいな印刷物に仕上がりと、貴重な資料が完成した。枚数も本校全児童分を印刷していただき、全家庭に配布することができた。市役所のご協力により、立派なマップが完成したので、もっと多くの人に知っていただこうと、地元の新聞社に取材のお願いをしているところである。新聞で紹介していただくことで、校区の住民みんなが安全の意識を高め、安心して住める町にしてほしいと思う。

②成果と子どもたちへの効果・・・自分たちで作った安全マップであることに喜びを感じていた。さらにこれ全家庭に配布したことで、最初に話し合った「学習したものを生かす」というゴールに到達でき、満足感を味わっていた。また、こうした学習により、「安心安全な町づくり」など、これまでと違った視点で自分の町を見つめることができたり、自分の住む町の将来に関わっていくような思いを持つ子に育ったりできたのではと思う。